

# 貸借対照表

2023年3月31日現在

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	2,304	流動負債	1,120
現金及び預金	28	買掛金	698
売掛金	1,096	リース債務	48
未収入金及び未収利息	11	未払金	242
商品	24	従業員預り金	4
貯蔵品	-	未払費用	13
短期貸付金	1,003	前受収益	15
未収消費税	-	未払法人税等	0
未収還付法人税等	4	未払消費税等	6
前払費用	103	未払事業所税	3
その他	33	賞与引当金	83
固定資産	661	製品保証引当金	3
有形固定資産	426	工事損失引当金	-
建物附属設備	16	固定負債	403
工具、器具及び備品	79	退職給付引当金	388
工具、器具及び備品(賃貸)	165	役員退職慰労引当金	6
一括償却資産	3	リース債務	7
リース資産	10	繰延税金負債(長期)	0
建設仮勘定(有形)	151	負債合計	1,523
無形固定資産	183	(純資産の部)	
ソフトウェア	130	株主資本	1,442
ソフトウェア(賃貸)	24	資本金	100
リース資産	0	利益剰余金	1,342
電話加入権	3	利益準備金	25
建設仮勘定(無形)	24	その他利益剰余金	1,317
投資その他の資産	51	繰越利益剰余金	1,317
貸倒懸念債権	-	純資産合計	1,442
貸倒引当金	-		
長期前払費用	34		
敷金	16		
繰延税金資産	-		
その他	0		
資産合計	2,966	負債・純資産合計	2,966

- (注) 1 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。  
 2 「0」は、金額が表示単位未満であることを示しております。  
 3 「-」は、零または該当数字がないことを示しております。

# 個別注記表

2022年4月 1日から  
2023年3月31日まで

## I 重要な会計方針に係る事項に関する注記

### 1 資産の評価基準及び評価方法

商品及び貯蔵品は、個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）によっております。

### 2 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は次のとおりであります。  
建物附属設備 10年～18年 工具、器具及び備品 3年～15年

#### (2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は次のとおりであります。  
自社利用のソフトウェア 5年

#### (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

### 3 引当金の計上基準

#### (1) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

#### (2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

#### (3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

#### (4) 製品保証引当金

完成ソフトについて無償で行う保証費用に備えるため、過去の実積率に基づく将来の保証見込額を計上しております。

#### 4 収益及び費用の計上基準

工事契約に係る収益は、工期がごく短い工事を除き、履行義務を充足するにつれて、一定の期間にわたり収益を認識しております。なお、履行義務の充足に係る進捗度の見積りの方法は、工事原価総額に対する発生原価の割合（インプット法）で算出しております。また、履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積ることができないが、当該履行義務を充足する際に発生する費用を回収することが見込まれる場合には、原価回収基準を適用しております。工期がごく短い工事については、一定の期間にわたり収益を認識せず、完全に履行義務を充足した時点で収益を認識しております。

#### 5 その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用しております。

#### 6 会計上の見積りに関する注記

会計上の見積りにより当事業年度に係る計算書類にその額を計上した項目であって、翌事業年度に係る計算書類に重要な影響を及ぼす可能性があるものは、次のとおりです。

繰延税金負債 0百万円

繰延税金資産の認識は、将来の事業計画に基づく課税所得の発生時期及び金額によって見積っております。当該見積りは、将来の不確実な経済条件の変動などによって影響を受ける可能性があり、実際に発生した課税所得の時期及び金額が見積りと異なった場合、翌事業年度の計算書類において、繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

## II 貸借対照表に関する注記

1 有形固定資産の減価償却累計額 489百万円

### 2 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

短期金銭債権 804百万円  
短期金銭債務 7百万円

### Ⅲ 関連当事者との取引に関する注記

#### 1 親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称	議決権等の所有割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社	北海道旅客鉄道株式会社	被所有 直接 90%	ソフトウェア開発、情報システム運用・保守受託、情報処理機器販売など	売上高	2,455	売掛金 前受収益	793 10
				仕入	0	買掛金	0
				出向負担金の受入	15	未収金	10
				出向負担金の支払	75	未払金	7
				その他販売費	1	未払金	-

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 取引条件は見積価格を提示し、価格交渉のうえ決定しております。

(注2) 出向負担金の受入額及び支払額については、当社の人件費を基準として決定しています。

(注3) 取引金額には消費税等を含んでおりません。期末残高には消費税等を含んでおります。

#### 2 兄弟会社等

種類	会社等の名称	議決権等の所有割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社の 子会社	株式会社 北海道 ジェイ・ アール 商事	-	ソフトウェア開発、情報処理機器販売及び資金の貸付等	売上高	167	売掛金 前払費用 前払金	95 0 -
				機器仕入原価	-		
				リース資産取得	-	リース 債務	11
				再リース	0		
				その他事務用品等 仕入	2	未払金	0
				固定資産取得	-		
				CMS 短期貸付金利 息の受取	1	短期 貸付金	1,003

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 取引条件は見積価格を提示し、価格交渉のうえ決定しております。

(注2) 資金の貸付の取引条件は、北海道旅客鉄道株式会社グループのCMS（キャッシュ・マネジメント・システム）に参加する企業相互間で剰余金を融通するため、統括会社である株式会社北海道ジェイ・アール商事との包括的金銭消費貸借契約書によっております。

(注3) 取引金額には消費税等を含んでおりません。期末残高には短期貸付金を除き消費税等を含んでおります。

### Ⅳ 1株当たり情報に関する注記

1 1株当たり純資産額 721,476円80銭

2 1株当たり当期純損失 250,552円12銭

## V 当期純損益額

当期純利益

▲ 501 百万円

## VI その他の注記

- 1 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。
- 2 「0」は、金額が表示単位未満であることを示しております。
- 3 「-」は、零または該当数字がないことを示しております。